1. 特定本邦航空運送事業者(※)に関する航空輸送サービス に係る情報公開(令和3年1月~令和3年3月)のポイント

※特定本邦事業者

○全日本空輸: ANA(全日本空輸、ANAウインク・ス)

○日本トランスオーシャン航空:JTA

OAIRDO: ADO

○ ソラシト * I7 : SNJ

※バニラ・エアは令和元年9月をもって運航を終了。

○スターフライヤー: SFJ

OPeach · Aviation: APJ

○ジェットスター・ジャパン:JJP

 \bigcirc \land ^* $=\bar{\flat}\cdot$ I7: VNL

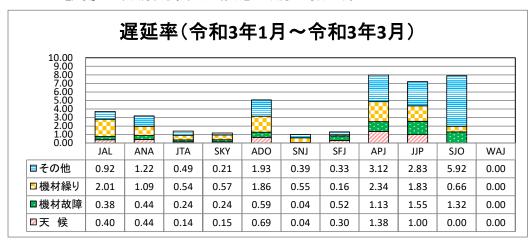
○春秋航空日本:SJ0 ○1779 7 · 9 * 7 · 9 * 7 · 2 · WAJ

1. 輸送サービスの比較等に関する情報

(1)遅延率(令和3年1月~令和3年3月)

| 当期実績 | 前年度同期実績 | 前年度同期との比較 |
|--------|---------|-------------|
| 2. 25% | 7. 09% | 4. 84ポイント減少 |

※「遅延便」とは、出発予定時刻より15分を超えて出発した便をいう。



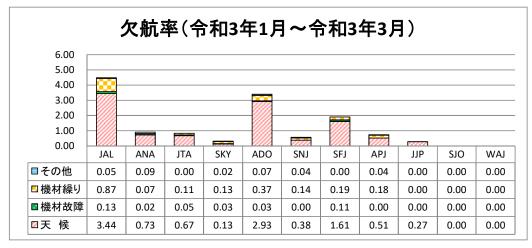
※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航になり引き続く次便が遅延運航となる場合をいう。

(2) 欠航率(令和3年1月~令和3年3月)

| 当期実績 | 前年度同期実績 | 前年度同期との比較 |
|--------|---------|------------|
| 1. 42% | 0. 96% | 0.46ポイント増加 |



※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適 さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。) ※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航・欠航になり引き続く次便が欠航となる場合をいう。

2. 運賃関連情報

(1)輸送実績(令和3年1月~令和3年3月)

| 項目 | 当期実績 | 前年度同期実績 | 前年度同期との比較 |
|------------------|--------------|---------------|-----------|
| 平均搭乗区間距離 | 942km | 944km | 0. 25%減 |
| 輸送人員 | 712万6207人 | 1976万2479人 | 63. 94%減 |
| 輸送人キロ | 670億9992万人km | 1865億9556万人km | 64. 04%減 |
| 旅客収入 | 1001億98百万円 | 2722億68百万円 | 63. 2%減 |
| 輸送人員あたり 旅客収入 | 14.1千円 | 13.8千円 | 1.89%増 |
| 輸送人キロあたり 旅客収入 | 14. 9円 | 14. 6円 | 2. 28%増 |

(2)路線別データ(令和3年1月~令和3年3月)

①旅客数

| 化合 数 | | |
|--------------|-----------|-------------|
| 上位5路線は次のとおり。 | | |
| | 当期実績 | 前年度同期実績 |
| 1位 東京=福岡 | 71万5059人 | (173万3223人) |
| 2位 東京=札幌 | 66万5747人 | (164万0994人) |
| 3位 東京=那覇 | 48万1059人 | (119万8629人) |
| 4位 東京=大阪 | 46万1332人 | (108万1010人) |
| 5位 福岡=那覇 | 18万4839人 | (40万7831人) |
| 全路線 | 250万8036人 | (606万1687人) |
| | | |

②利用率

上位5路線は次のとおり。

下位5路線は次のとおり。

| 1位 成田=熊本 | 71. 3% (75. 9%) | 1位 大阪=壱岐 | 13. 4% (50. 3%) |
|----------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 2位 成田=福岡 | 71. 1% (76. 0%) | 2位 成田=中部 | 13.6% (54.0%) |
| 3位 成田=高松 | 68. 2% (76. 6%) | 3位 成田=大阪 | 13. 7% (58. 4%) |
| 4位 丘珠=釧路 | 67. 4% (65. 4%) | 4位 東京=能登 | 16. 5% (50. 1%) |
| 5位 成田=高知 | 66. 1% (68. 7%) | <u>5位 中部=函館</u> | 18. 3% (40. 4%) |
| 全路線 | 45. 2% (59. 8%) | 全路線 | 45. 2% (59. 8%) |

3. フレックストラベラー制度(※)に関する情報

令和3年1月~3月における、フレックストラベラー制度を有する航空会社の全輸送人 員に対する不足座席数の割合(1万人あたり)が高かった特定本邦上位3社は次のとおり。

(※) オーバーセールス(提供座席数を上回る予約客を受け付けること)の発生が判明した時点で、自主的に搭乗を取りやめる旅客を航空会社が幅広く募集する。

| | | 全輸送人員に対する不足座席数の割合 (1万人あたり) | |
|---|---------------|-------------------------------|--------|
| | | 当期実績 | 前期実績 |
| 1 | 全日本空輸 | 0. 34人 | 0.60人 |
| 2 | 日本トランスオーシャン航空 | 0. 28人 | 0.05人 |
| 3 | 日本航空 | 0.01人 | 0.09人 |
| | 全社平均 | 0.14人 | 0. 34人 |

※今回の公開項目の詳細、及び過去の公開資料につきましては、国土交通省のホーム ページ上にてご確認頂けます。

(URL)http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000727.html